臨床データ利用についてのお願い

当院では下記の研究を行っております。

課題名：

疼痛に過敏な患者に対する Open kinetic chain と Closed kinetic chain の関節アプローチの違いによる膝関節可動域改善の効果検証
-ABA シングルケースデザインによる検証-

＜目的及び概要＞
　関節可動域制限に対して Open kinetic chain（以下、ＯＫＣ）による関節モビライゼーションが主流であるが、Closed kinetic chain（以下、ＣＫＣ）に荷重における関節アプローチにおいても関節可動域の拡大が散見される。そこでＯＫＣとＣＫＣによる関節アプローチの違いが関節可動域に対して効果があるのかを検証することを目的とした。
＜研究方法＞
　69 歳の左大腿骨遠位開放骨折（Gustilo 分類Ⅲa），左大腿骨骨幹部・遠位端骨折，左膝蓋骨骨折と診断された男性。11 週間膝関節伸展位で固定が必要であった対象者に対し、シングルケースデザイン（ＡＢＡ法）を用い、Ａ期をＯＫＣによる関節モビライゼーション（5 日間 20 分）、Ｂ期を端座位でＣＫＣによる荷重を用いた関節アプローチ（5 日間×訓練時間 20 分）による介入後に膝関節可動域を臥位と端座位で自動運動と他動運動により、1°ごとに比較検討した。

＜研究成果発表＞
学会等や誌上での報告を行います。個人名や個人情報が公表されることはありません。

＜研究者＞
リハビリテーション科：山形　繁広

＜問い合わせ先＞
本研究に関するお問い合わせや診療情報の利用を望まれない方は、下記までご連絡ください。

兵庫県立西宮病院　医事企画課
電話：0798-34-5151（代表）

令和　6　年　6　月　27　日倫理委員会承認（迅速審査）（受付番号　R6-16　　）